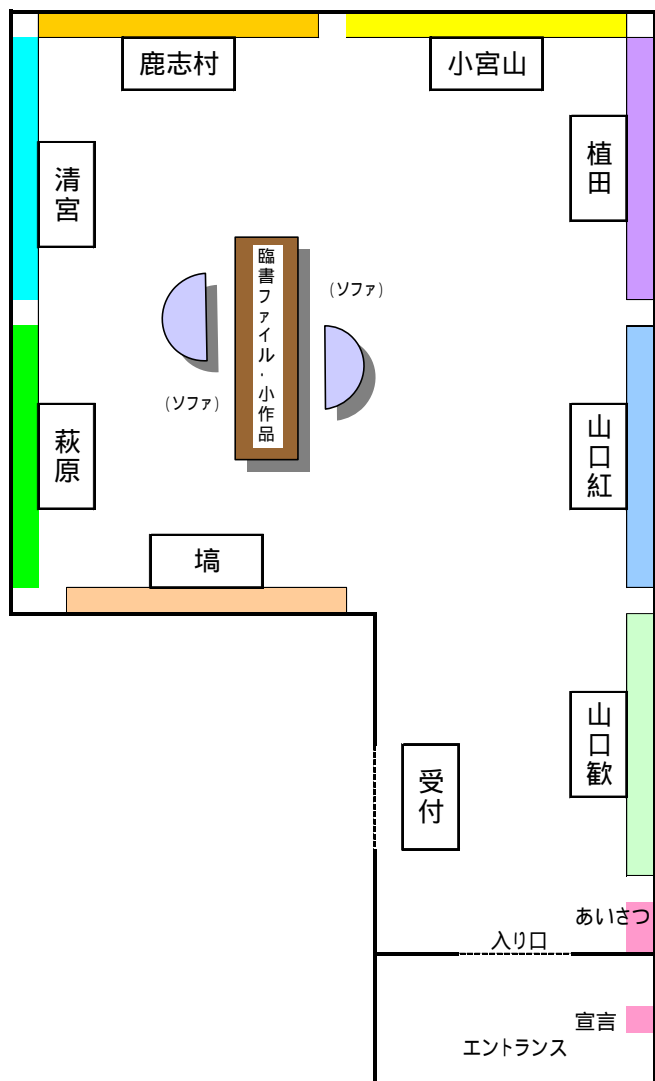


東海ステーションギャラリー (平面図)



第2回 山口塾書道展

作品目録

平成23年2月27日(日)～3月5日(土)

東海ステーションギャラリー

山口塾代表 山口 歡一
〒319-1114 茨城県那珂郡東海村須和間 174-28
TEL 029-283-1479

宣 言

第2回山口塾書道展に際し、山口塾書道展の在り方を宣言したいと思います。
山口塾の存在を意義づけるとすれば、「人間らしく生きるにはどうあらねばならないか」を考える、その上に立つて

「書をどう意味づけするか」「人間 生きるための書を作る」
でありたい。

今回は書道展ですが、その他の勉強もする！

「人間どうあらねばならないか？」を絶えず考え実行する集団でありたい。

命の輝きを金子みすずさんは『みんなちがってみんないい』と表現されました。また更に、人間は生きていくうえで余分なものは一つもない。今で充分の世界があるのです。こういう世界の輝きを表現したい。幸い我が「山口塾生」は、みんな輝きみんな個性豊かに暮らしております。そういう生き様を世に問うのが「山口塾書道展」でありたい。

手本のない、手本を作らない「山口塾」。その山口塾長のもとに提出された作品は塾長の予想を超えたものばかり。それでいいのです。書道と云っても『書』の枠をこえたような作品に、塾長はいつも眼をパチクリパチクリしています・・・？また、それを大いに楽しんでいきます。われらの山口塾展は個性が絡み合っている人間集団であり書道展でありたいと願います。

今日も又とんでもないものを提出して「先生これだせますか？！」

塾長はうーんとうなって・・・？？？~~~~！！

『みんな違ってみんないい、みんな輝いて行こう』

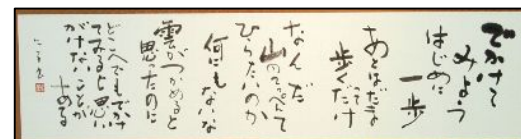
こういう事は、生きる上で大切な事と思っています。

今回の山口塾展も、こういう展開ができれば望外の幸せです。

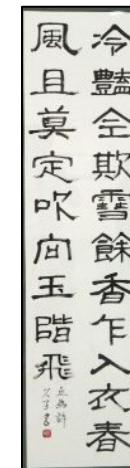
平成 23 年 2 月 27 日 塾長 山口 歡一



(全紙)



(半切)



(半切)



(全紙)

< 塙 久子 >

今回は、「春」をテーマにし、大字2作品と詩2作品の題材を選びました。

【縁】 秋の芸術祭では、全紙縦に「縁」を縦長の文字で発表しましたが、横にふくらませた文字もおもしろいのでは・・・と思い横長に表現してみました。さまざまな良い縁がふくらみますように願って・・・。

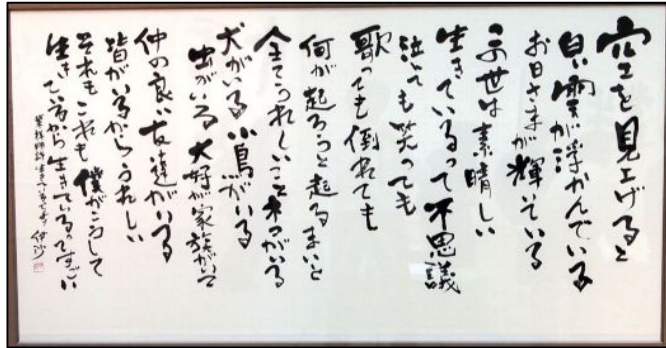
【山のてっぺん】 岸田衿子詩 「何をやろう」「どこへ行こう」などと頭の中であれこれ考えているよりも思い切って行動に移してみましょう。一步足を踏み出すことで思わぬ発見や喜びが得られるかも知れません。わたしも、ぜひ、心がけたいです。

【左掖梨花】(さえきのりか) 丘為詩 唐詩五言絶句から選びました。詩の内容

梨の花の冷たいなまめかしさは、全く雪かと思まがうばかり。あふれ出た香りは、たちまちのうちに人の衣にしみ入る。春風よ、まあ吹き止まずにいてくれ。花びらがお前に吹かれて、玉階(庭から家への階段)へ飛ばうとしているのだから。

左掖とは、長安の内裏である大明宮の左の門。この門のわきに咲いた梨の花を見て詠じた詩ですが、色彩、香りそして春の趣がそのまま伝わってくるようです。

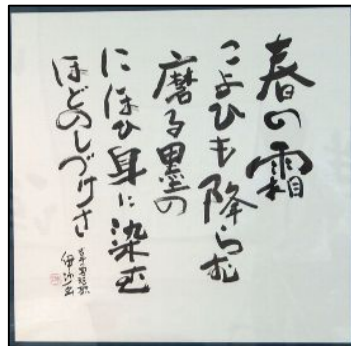
【春告鳥】(はるつげどり) 曆の上では、春ですが、春のきざしが待ち遠しいところです。まずは、ウグイスの声が聞きたいですね。隷書風に表現してみました。



(全紙)



(120×120cm)



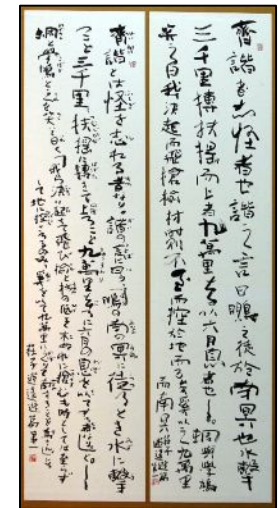
(全紙 1/2)



(全紙)



(全紙)



(半切×2)

<萩原 伊沙>

【吉井 勇 短歌】

作品を書く時に墨を磨ります。墨により、かおりがそれぞれ違います。
作品の構想は墨を磨る時から始まっているのかもしれない。

【生きているって】 葉 祥明 詩

この作品を書きながら今を生きている事の大切さを思っております。

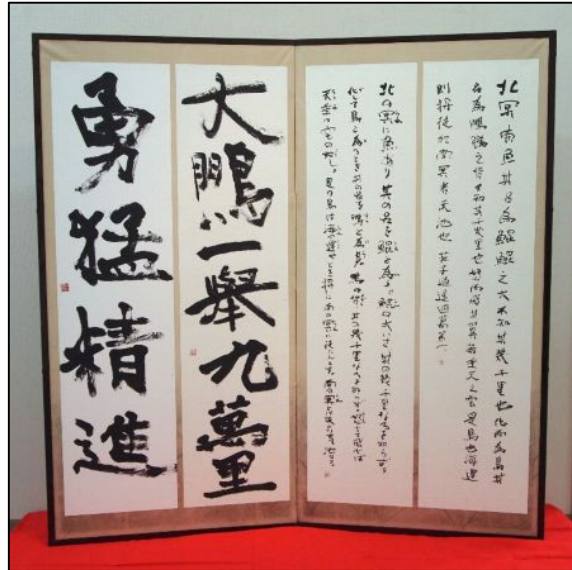
【静 寂】今回初めて漢字大字書に挑戦しました。作品は頭の中で考えた様にはいかず偶然に生まれたというのが実感です。

<山口 歡一>

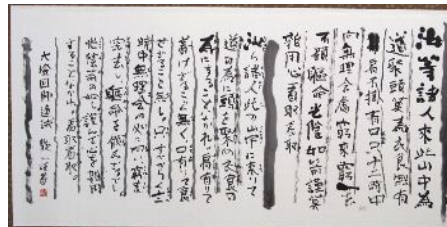
【開 也】 「開也」などという言葉があるかどうか解りませんが、今の心境を表すとしたら？こんな文句になりました。

【勇猛果敢】 「勇猛精進」が完成したので、今度は「勇猛果敢」です。

【大鵬物語り】後半 大鵬物語りのこれは続編です。(荘子の逍遙遊篇) の概略。一つの物語りになりました。



(屏風)



(全紙)

<山口 歡一>

【二曲一雙屏風】 屏風を持っているから、これに書いてみたら！と、おっしゃっていきなり屏風を持ち込んでくれた方がいたので、前から書きたかった(大鵬一舉九萬里)と(勇猛精進)を半切それぞれに書いてみた。続いてもう片方の余白に(大鵬一舉九萬里)の典故(莊子)の(北冥に魚あり。その名を鯢という。・・・)で始まる大鵬物語りを書きました。これで二曲一雙の屏風が出来ました。屏風の持ち主に感謝！

【大燈国師の遺誡】 中川一政先生の作品にこのような文句の作品があります。この文句に感激して私流で書いてみたいと思い漢文と釈文と一緒に作品にしてみました。読んでいただければ大変有難いです。



(全紙)



(半切)



(半切)



(半切x5)



(半切)

<清宮 寿子>

2回目の山口塾書道展は、1回目とちがい、題名という内容にむずかしさを感じました。何を言いたいのか、表現したいのか？

【米芾 苕溪詩帖】 書を書くことに同じ肩肘を張ってしまう自身に、米芾は自由自在に闊達に変幻自在な表現ができることを願って臨書した。

【觀自在】 般若心經の3文字。視野、考え方をもっと広く大きく持ちたかった。

【笑門】 年頭のけいこ日、楽しく書きあがった。

【唯我獨尊】 よい意味での自分を最大限前面に押し出したかった。

【大峯独坐】 昨年文化祭に「独坐」のみ出品したので本来の意味2字を追加し、大きい気持ちを出した。



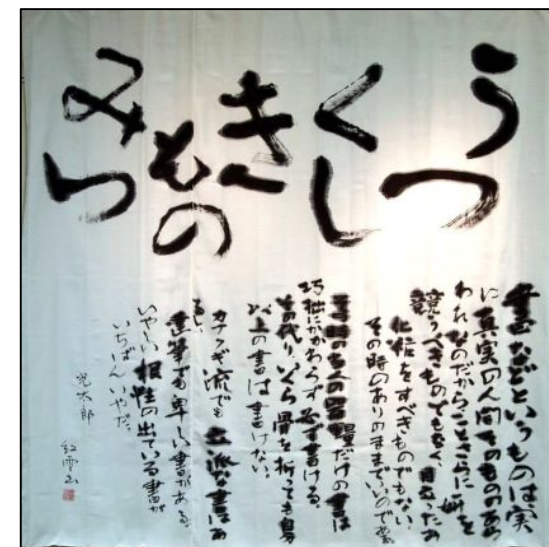
(全紙)



(全紙)



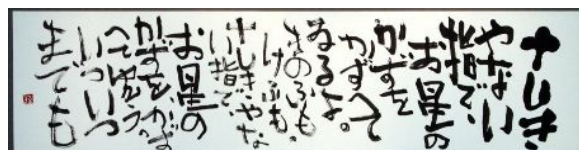
(240cm x 120cm)



(200cm x 210cm)



(全紙 1/2)



(半切)

< 鹿志村 久美子 >

【星のかず】 金子みすゞの詩です。無限の宇宙の広がり、永久の時間の繋がりを感じます。書いてみると、自分の心まで広がるように感じました。

【星と僕は】 「1/4の奇跡」の中の言葉です。特別支援学校教諭の山元先生と大ちゃんが二人で星を眺めていたとき、大ちゃんが言いました。山元先生は、生徒たちとの交流の中で、この世のすべてに宇宙をつらぬく「本当のこと」が存在するのではないかと気付いたといひます。大ちゃん言葉の中にも「本当のこと」があるように思いました。そして、たまらなく書きたくなりました。

【挑む】、【好奇心】

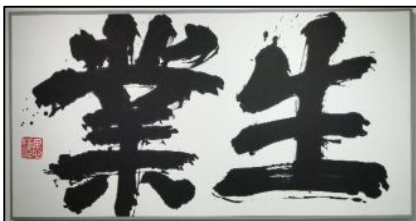
外への好奇心、内なる自分への挑戦、当座のモットーです。

< 山口 紅雪 >

ひと言： 路傍のふみつけられた董（すみれ）、ゴミの中からニコッと咲いたコスモス、形の整わない物、目には見えない半分、写真ならカラーよりもモノクロ。ちょっと足りない世界、そんなものが私には宝物のように思える。世間の隅っこの忘れられたところでも大自然の営みに逆らわず、与えられた運命を大切に生きたい。

【うつくしきものみつ】 高村光太郎のことば

てん たん
【恬 淡】 心静かで 無欲のさま



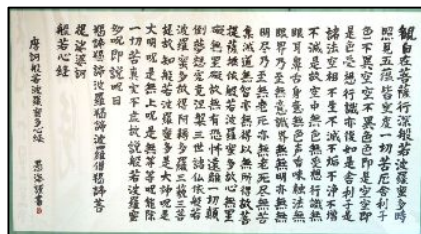
(全紙)



(全紙変形)



(全紙×2)



(全紙)

< 植田 愚海 >

【心 釈 般若心経】 柳澤桂子さんの心釈には驚きました。自らの病気の苦難からここまで深い心境に至れるものかと驚嘆です。苦行僧をも凌ぐ昇天の心理ではないか思います。般若心経の心釈 1500 余字をとにかく必死に書き写しました。一文字、ひと文字間違わないように真剣に読み書いてゆくうちに、お経を唱えているような境地になります。

【生 業】(なりわい) ちょっと古臭い言葉ですが、書いてみたくなりました。意味は「暮らしを立てるための仕事、家業」ですが、神事としての意味もあるようです。五穀が生るように務めるわざ。農作。『農(なりわい)』は天下の大きな本なり。

【祈 り】 毎朝夕にお祈りをします。自分のこと、家族のこと、友人のこと、世界のどこかで災害や紛争で苦しむ人たちのこと・・・。
人類が霊長類として分類されている所以は、「祈り」にあります。神との対話、生命の原点のように思います。古代人も埋葬には花を手向けたそうです。

【摩訶般若波羅蜜多心経】 仏様に捧げる言葉ですから、決して間違わないようにと、何度も書き直していると頭の中が空白になってゆきます。まさに「空」かな？余計なことは考えないようにします。



(半切)



(全紙)



(半切)



(全紙)

< 小宮山 千雲 >

会社にいた頃、毎年職美展が開催され、たまたま書作品を出すことになりました。書道部の方にお手本を書いてもらい苦労して書いたが、上手く書けませんでした。展覧会に張り出された作品を見たときの恥ずかしさは今も脳裏に残っています。何とか上手く書きたい一心から、1991年より書道教室に通い、お稽古を続けたが、なかなか上手く書けませんでした。

たまたま、テレビ放送で岡本光平先生が「古来、日本人には、均整のとれたものより、むしろ少しアンシンメトリーなものに魅力を感じる美意識があります。にもかかわらず、書の世界では均整美を求める傾向があるのです。これは、近代の教育書道が均整美を重視する公用書体をお手本にしてきた歴史があるからにほかなりません。」と語られました。この言葉に影響されてか均整美のとれた字形より「個性のある自分流の字」で書くこと、「書で自己を表現する」ことに関心を抱くようになりました。

好きな書家は中川一政、何紹基です。

今回の作品作りでは自己表現に心掛け、小さい字は長鋒の羊毛筆で線の柔らかさや張りを、大字は羊毛太筆で力強さを出すことを心掛けました。

【洗 心】 洗の字が好き。洗の付く字は洗足、洗耳、洗筆、洗心など色々ある。洗心を選んで作品を作ってみた。墨をたっぷり筆に含めて全紙いっぱい力強く書いて見た。

【東 曉】 朝日が昇る前の東の空と海が好きだ。そこで東暁という字を選んだ。全紙に大字で墨を多く使って滲みを出し柔らかい感じを出そうとした。

【寒光千里暮】半切に一行書き。題名の意味は見たすかぎり、寒々とした夕暮れ。のびのびとした感じで書いた。

【開門雪満山】半切一行書き。門を開けると山には雪が降り積もっている。擦れた字を書いていたらこんな字形になった。